



石川啄木全歌集総索引

村上悦也編

笠間索引叢刊 10

この書を亡き両親に捧げる

序

「石川啄木全歌集総索引」は啄木の歌集「一握の砂」五五一首、「悲しき玩具」一九四首、合計七四五首の歌についての索引である。「定本石川啄木全歌集」石川正雄編は「歌稿ノート」「日記・書簡より」「新聞雑誌所載」等の新資料を加えて、全歌の索引を巻末に附けたもので、普通それで充分である。村上悦也君の総索引は前書が三行書きの啄木の歌の第一句による索引であるのに対し、一首の歌を語（名詞・動詞・形容詞・副詞・助詞等）に分析して作った索引であるから、それだけ利用価値高く、研究者を利すること大である。啄木の歌は平明な日常語でもって詠まれて居り、普通に和歌が上下二句を二行に書かれるのに対し、これは三行に書かれ、その為吾々は散文詩風な新しい印象を受ける。所謂歌語によらず、言葉を自由に使って、新しい生活感情を表現しているから、古歌のような語句の註釈は不要である。その代り歌の内容の理解が大事である。啄木の生きた明治の中・後期の時代精神・社会情勢・生活環境・思想感情・人生観・世界観・文芸観が何んなであったか、そこまで表現の焦点の絞られて行くような歌が多い。たとえば索引によって「死」に関する歌を求めると、「一握の砂」だけで二〇首位出てくる。何故啄木は死に心を惹かれるのか。貧しくて、病がちで、いつも追われている様な生活から来る生活苦や人間苦、それを突き破って進もうとするが、すぐ壁にぶち当たる、ぶち当っては死を思ふのである。「悲し」と云う語を使った歌の如きは無数である。このように此の索引の利用法は色々ある。よくもこんな面倒なことをやったものだと感心している次第である。

序

著者村上悦也氏との出会ひは、関西大学の文学部大学院博士課程におけるときであり、一年間ほとんど休まれたことのない、まじめな、そして精悍でエネルギーな人ならを觀察したのである。

「石川啄木の作品を読むために、その全語彙索引をつくってみませんか。出版社はどこかへお世話しませう。出版といふことよりも、啄木の歌をよく読み、品詞別にカードを探り、これを五十音順にして行く、あるいはさうしておくことは彼の作品を味読するのにもつとすぐれた勉強になりますよ。『涙』と『ふ』の『かなし』といふ一形容詞の意味や用法を調べることにその作品における意義があり、伝記研究以外のテーマは無限に出て来ます。いや、その精神的な啄木の心の伝記はその歌から、その歌詞から、『こをば』のつかひかたからでないと探求できないでせう……」。

しゃべったことはもちろんこの通りではないが、大体かうした内容のことをいつて、著者に全語彙のカードづくりを勧めたのは昭和四十五年の夏か、秋のころであつたらう。

わたくしの単位を取得せられ、博士課程を修了せられてからも村上氏は、この索引のつくりかた、品詞別の取扱などについて何十回か会見を申し出られた。関大の、わたくしの出講日、あるいは、わたくしの勤務先の研究室へ足を運ばれて疑問をただし、一語一句の処置方法を質問せられて二年以上経つた。電話でたづねて来られたことも十回以上であらう。

をこがましいいひかただが、「石川啄木全歌集総索引」編者の試案というか、凡例づくりが、村上悦也氏に対するわたくしの、大学院での指導成果であるといつてよい。もちろん、この著者の高い識見と懸命の努力と強い熱意と、それに深い学問があつてはじめてこの書が成つたのであるが、関大で

清少納言や枕冊子ばかりを講義してゐるのに、その受講者の中からこのやうなまつまたくしの専門外の時代の作品についての学術書が出来たことに深い感激をおぼえずにはゐられないのである。このごろはやりのコマーションアルではないが、「村上悦也氏がゐて田中重太郎がゐて……」か「田中重太郎がゐて村上悦也氏がゐて」か、ともかくも奇しきめぐりあひであつた。しかし、めぐりあひがあつても、この著者に学問に対する情熱がなかつたら、情熱はあつても著作の意欲がなく、氣力と努力とがなかつたら、この本は生まれてゐないであらう。

わたくしは、石川啄木の歌が近代短歌の中で一流だとは思つてゐても一流中の一流作品だとは考えない。しかし、苦しいとき、かなしいとき、心が晴れないときに、わたくしの脳裏にある二、三十首の啄木作品のどれかが不思議に口をついて出るのである。彼は人生の歌人だと思ふ。もし、この人の歌の一語一句からその一首がすぐ引ける索引ができたらどんなに便利であらうかとかねがね思つてゐた。

国歌大観のやうな五句索引でも十分であるが一人の歌人の歌の全語索引が出来て、それが入手可能の頒価であつたらと思つてゐた夢が村上氏によつてはやばやと完成せられたことはうれしい。

石川啄木の研究にまつたく縁のない者がこの書に序を書くことのおほけなきは十分承知のうへで、この書の上梓を心からよろこび、著者の熱意と努力とにうたれ、謝し、今後の研究を期待して蕪辞をつらねた次第である。

昭和四十七年八月二十日

田中重太郎

凡 例

○本 文

一 「一握の砂」「悲しき玩具」(ともに日本近代文学館初版復刻)、筑摩書房版啄木全集第一巻・角川文庫版「啄木歌集」を参照して、左表の通り異同検討し、正しくない表記があれば、これを改め、ルビも統一して本文を定めた。

一 各歌には、両歌集通しての番号を付し、「悲しき玩具」は、そのみの番号も()を使って示した。通し番号では、551までが「一握の砂」552以後が「悲しき玩具」である。

一 かなづかいは歴史のかなづかい、漢字は新漢字を使った。

一 「悲しき玩具」中の数字には、三書ともルビはないが、本書ではすべてルビを付した。

番号	初 版	筑摩書房版	角川文庫版	本書・本文	備 考
19	心 <small>こころ</small>	こころ	こころ	こころ	他は「こころ」
29	銃声 <small>こっさ</small>	じうせい	じうせい	じゆうせい	
65	龍	竜	龍	竜	
83	たはむれす	たはむれ	たはむれす	たはむれす	
166	ともに	ともに	共に ともに	ともに	164 222 共に 249 332 615 ともに

571	554 565 603	550	548	489	480	464	372	357	317	304	288	254	244	179	178	171	
出でて、	途 中	強 く	注 射	瀧 山 町	人 気 な き	白 き	か の 代 議 士	宗 教	洋 書	潮	大 空	少 人	す ず ろ な り け れ	智 識	蚯 蚓	我 が	
出でて、	と ぎ やう	強 く	ち やう し や	瀧 山 町	ひ と げ な き	し ろ き	か の 代 議 士 の	し う け う	や う し よ	ル ビ な し	お ほ そ ら	少 人	す ず ろ な り け れ	智 識	み み づ	我 が	
出でて、	と ぎ やう	つ よ く	ち やう し や	瀧 山 町	ひ と げ な き	し ろ き	か の 代 議 士 の	し う け う	や う し よ	し ほ	お ほ そ ら	小 人	す ず ろ な り け れ	知 識	み み ず	吾 が	
出でて、	と ぎ やう	強 く	ち やう し や	瀧 山 町	ひ と げ な き	し ろ き	か の 代 議 士 の	し ゆ け う	や う し よ	し ほ	お ほ そ ら	小 人	す ず ろ な り け れ	知 識	み み ず	我 が	
													461 487 す ず ろ				155 203 402 478 497 631 690 733 我 が

671	667 681	666	646	637	623	623	621	618	611	604	602	601	596	584	578
募 <small>ま</small> る	氷 <small>こ</small> の 囊 <small>ふくろ</small>	医 <small>い</small> 者 <small>しや</small>	騒 <small>さわ</small> がしき	心 <small>こ</small> の 地 <small>ち</small>	机 <small>つ</small> へ	筈 <small>はず</small>	耳 <small>みみ</small>	涙 <small>なみだ</small> 出 <small>で</small> たり。	外 <small>ぐわい</small> の 套 <small>たう</small>	ちぢめ、	眼 <small>め</small> の 氣 <small>け</small>	心 <small>こころ</small> も と な ま き	蠟 <small>ろう</small> 燭 <small>そく</small>	ちやうど	郊 <small>かう</small> 外 <small>ぐわい</small>
つゝる	へうのう	いしや	さはがしき	こゝち	つくへ	はず	みみ	涙 <small>なみだ</small> 出 <small>で</small> たり、	ぐわいとう	ちぢめ、	ねむげ	こゝろも と な ま き	らうそく	ちやうど	かうぐわい
つゝる	へうのう	いしあ	さはがしき	こゝち	つくへ	はず	みみ	涙 <small>なみだ</small> 出 <small>で</small> たり。	ぐわいとう	ちぢめ、	ねむげ	こゝろも と な ま き	らうそく	ちやうど	かうぐわい
つゝる	ひようなう	いしや	さわがしき	こゝち	つくゑ	はず	みみ	涙 <small>なみだ</small> 出 <small>で</small> たり。	ぐわいたう	ちぢめ、	ねむげ	こゝろも と な ま き	らうそく	ちやうど	かうぐわい
		232 448 548 641 670 671 686 いしや	318 727 さわがしき 408 433 さわがしき	70 こゝち			23 30 109 111 264 295 307 481 522 みみ				628 ねむげ		125 らうそく		

○索引

一 単語を単位とし、五十音順に配列した。ただし、複合語や、単語に分けると、その意味が失われるものは、連語として一語に扱った。

〈例〉あかなく(飽かなく) いねがてに(い寝がてに)

一 かなづかいは歴史のかなづかいとし、口語とはっきりわかるもの以外は、すべて文語として扱った。わが(我が)・この等は、口語連体詞として扱った。

一 活用語は、基本形を見出し語とし、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の順に配列し、同形で判別の必要なものはその語の下に、未(未然形)、用(連用形)、終(終止形)、体(連体形)、已(已然形)、命(命令形)の略称で、活用形を示した。語幹と語尾の区別のできるものは、その間に・を入れた。活用中、口とあるのは口語を示す。

〈例〉い・ふ(言ふ) か・く(書く)

い・ふ 終 か・き

い・ふ 体 か・い 口・用

一 見出し語は、かな書きとし、漢字まじりの語は()内⁽¹⁾で示し、かなだけの語も、初出歌を参照し、意味がとれるよう、できるだけ漢字をあて、「⁽²⁾」で示した。

〈例〉(1) あかあかと(赤赤と) (2) あかつき〔晝]

あくるび〔翌]日

一 助詞・助動詞・補助用言は、前後の語を引用し、歌集番号順に並べた。形式名詞も一部これにならった。補助用言・形式名詞はそれぞれその下に「補」「形」を入れた。

〈例〉助詞「か」心にかあらむ

助動詞「き」 出でにき

補「あり」 掘りてありしに

形「たび(度)」 咳する度に斯く

一 助詞が二つ以上重なっているばあいは、間に・を付し、連続した形で示した。

〈例〉て・は に・も

一 同じ動詞で二つの活用の種類のあるものはそれぞれに見出し語を設け、その下にその活用の種類を示した。

〈例〉き・る(切る) 四(四段活用)

き・る(切る) 下二(下二段活用)

一 同じ語で、二種類の漢字を使っているものは、別々に見出し語を設けた。〔遊ぶ・あそぶ〕〔聞く・聴く・きく〕のように、同じ語で「かながき」を含んで、二種類または三種類の表記があるばあいは、見出し語を一つにした。

〈例〉(1) お・ふ(遊ぶ) (2) き・く(聞く・聴く)

お・ふ(遊ぶ) あそ・ぶ(遊ぶ)

一 形容詞の「かり活用」には、終止形も使われているので、その区別を示した。

〈例〉かな・しかり 用

かな・しかり 終

一 形容動詞連用形で副詞との区別がつきにくく、且つ、それ一語のみのばあいは、基本形を設けず連用形のままを示した。

〈例〉ことなむに ことしむに

— つぎの語は、区別できるよう、特に説明を入れた。

「おかね」 人名⁽¹⁾ 「月」 時⁽²⁾ 天体⁽³⁾

〈例〉 (1) 227 おかねが泣きて口説き居り

(2) 700 月に三十円もあれば、

(3) 17 病犬の月に吠ゆるに

— 感動詞には、その語の下に「感」を入れた。

— 各語の算用数字は、その語を含む歌の番号である。

石川啄木全歌集総索引
目次

序……………金子又兵衛…一

序……………田中重太郎…三

凡例……………五

本文編

一握の砂……………三

悲しき玩具……………五

索引 編

語彙索引..... 101

あ.....	102	さ.....	103	な.....	103	ま.....	104	ら.....	104
い.....	102	し.....	103	に.....	103	み.....	104	り.....	104
う.....	102	す.....	103	ぬ.....	103	む.....	104	る.....	104
え.....	102	せ.....	103	ね.....	103	め.....	104	れ.....	104
お.....	102	そ.....	103	の.....	103	も.....	104	ろ.....	104
か.....	106	た.....	106	は.....	106	や.....	106	わ.....	106
き.....	106	ち.....	106	ひ.....	106	ゆ.....	106	ゐ.....	106
く.....	106	つ.....	106	ふ.....	106	よ.....	106	ゑ.....	106
こ.....	106	と.....	106	ほ.....	106			ん.....	106
け.....	106	て.....	106	へ.....	106			を.....	106

初句索引..... 111

跋..... 111

●編者紹介

村上悦也（むらかみ えつや）

，大分県別府市に生まれる。

昭和 28 年大分大学学芸学部 2 年課程修了。同 36 年
日本大学文学部国文学科卒業。同 42 年関西大学大
学院修士課程修了。同 46 年博士課程単位取得。現
在，PL 学園高等学校教諭。

いしかわたくぼくぜんかしゆうそうさくいん

石川啄木全歌集総索引 ●笠間索引叢刊 10

昭和 48 年 2 月 28 日 初版発行©

¥ 4,000

編者 村上悦也

発行者 池田猛雄

発行所 有限会社笠間書院

〒101 東京都千代田区神田神保町 1-46
電話 03-294-0996・0787 振替東京 56002

検印
省略

3381-852010-0924

科学図書印刷・手塚製本所